
他殺考察

都築景斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

他殺考察

【Nコード】

N1396Q

【作者名】

都築景斗

【あらすじ】

普通に考え方がズレてるやつが一番怖いよね、って話です。

(前書き)

タイトルからもわかるように「殺す」ことに関するものですが、作者はそういう行為を推奨しているわけではありません。人間の「怖さ」みたいなものについて書いたつもりです。

よし、人を殺してみようか。

ふと、そう思った。

経験したことないから自殺でもいいけど、後のことを考えればやはりここは他殺だろう。

さて、実際問題、人を殺すとして何から準備すればいいだろう。
……凶器？

うん、そうだな、凶器だ。これは外せない。

凶器、凶器……ベタに包丁とか？それともチェーンソーなどの色物に走ったほうがいいのか。

いやいや、待てよ。そもそも殺害方法を決めてからのほうがよくないか。

刺殺、絞殺、撲殺、轢殺に溺殺……ミステリやらラノベやらでしか得てない俺の知識でもこんなにある。より取り見取り、ってやつか。

うん……人間ってこええよ。

んなもんばっか、充実させないでもっと他に考えるべきことがあるだろ。知能と時間のムダ使いすぎるだろ、もったいねえ。

ま、それはさておき、どうするか。

なるべく時間とか手間のかかんないものがいいな。課題とか、バイトとか他にやるべきこともあるし。

とりあえず、大して力強くないし撲殺は難しそうだ。溺殺は手間がかかりそうだし、轢殺もそもそも車の免許持っていないから無理だ。

と、なれば刺殺か絞殺あたりが無難だろうか。凶器も日用品で済むし、なにより足がつきにくそうだ。

ああ、そうだ。さすがに捕まって刑務所行き、ついでに死刑台行きなんて経験は勘弁したいんだよね。

トリック、アリバイ工作が必要か。

素人考えじゃばれるだろうし……そんな有名じゃないミステリからパクるか。どうせなら、洋書のほうがいいよな。

後で本棚あさってみるか……姉貴の。

しかし、あれだ……人を殺すって大変だな。実行した人を軽く尊敬しないこともない。考えるだけでこんなに疲れんのに。

あと、なにか必要なものはあったか。

ああ……あれか、捕まったときのための動機でも考えておくか。最悪を想定しておくことも大切だしなあ。

なるべく、こう情状酌量してもらえるようなやつを考えとかないとなあ。裁判員だし。

動機……ベタなのは怨恨だろうか。同情は引き付けやすいけど、でもありきたりすぎだよなあ。つまんないし。

動機、動機ねえ……。

つか、その前にあれだ、誰を殺すか決めてなかった。

んー、誰がいいだろう。

家族、友人、バイト仲間に顔見知り。顔だけは広いからより取り見取りではあるけれど。

……本当に誰にしよう。

他殺を経験してみたいだけで、殺したいほどの何があるわけでもないし。あー、やっぱり殺人って大変だ。すごい労力を必要とするよな、ほんと。

しかし、本当にどうしよう。

俺は誰を殺そうか。

「で、なんでアンタは満面の笑みでロープ片手にあたしの前にいるの？」

「うん、これが一番かなって思ってたさ」

「ああ、うん、わけわかんないから帰れ」

「恋人ってよく考えたらベタだし、好きすぎてって理由も悪くないと思ってたさ」

「いやいや、だから人の話聞けっての。てか、なんの話？」

「だからー、俺は君が好きすぎるから、ロープを使った絞殺で君を殺すことに決めた、って話」

「……ヤンデレ？」

「ああ、そういえば世間では流行ってるんだっけ」

「いや、流行ってるっていうか……ま、そんな感じ」

「大人しくしてくれれば、すぐ済むから、ねっ？」

「了承してないからっ。あー、あれよ……あたし殺したらもう手料理とか食べれなくなるんだからね」

「……うん、やめとく。君の手料理は絶品だから、食べれなくなるのはイヤだ」

「……。あたし、なんでアンタと付き合ってたんだろ……」

「そんなの、俺が君が好きで、君が俺が好きだからに決まってるじゃないか」

「あー、はいはい、ソウデスネー」

『殺したいほど愛してる』

(どこまで本気か、本人にも測定不能)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1396q/>

他殺考察

2011年1月15日21時29分発行